

令和元年6月8日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03468

研究課題名(和文) 歴史学研究者アーカイブズの構築と人文学の再生

研究課題名(英文) The construction of historical science researchers archives for the reconstruction of humanity

研究代表者

荒野 泰典 (ARANO, Yasunori)

立教大学・名誉教授・名誉教授

研究者番号：50111571

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、歴史学研究者山口啓二・村田静子両氏の遺した資料をアーカイブズとして構築することを目指し、以下の成果を得た。

(1) 資料の整理を行い、全体の約8割の目録化が終了した。両氏の歴史学研究・社会運動に関する基礎的な資料群であることが明白となり、また、山口の祖父斎藤阿具・父山口政二に関する史料や山口・村田家の生活資料を含むことも確認できた。(2) 整理した資料より得られた知見から、山口啓二が資料調査を行った地域での再調査や、斎藤阿具・山口政二に関連する一高(現東京大学)関係資料調査を実施することができた。(3) 当アーカイブズから研究テーマを抽出し、研究会で議論を深めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は人文学再生への道筋を探求しており、その土壌であり手掛かりともなるのが研究者アーカイブズである。自然科学系の研究者に比べて人文学系の研究者のアーカイブズはまだ少なく、本研究は歴史学研究者のアーカイブズ構築を目指す事例と位置付けられる。本研究で資料整理に用いた「現状記録調査法」という手法や、アーカイブズの適切な保管場所・保管者・公開方法の模索は、今後、他のアーカイブズ構築の際にも参考となるであろう。

山口啓二・村田静子両氏は、戦後の歴史学研究・自治体史編纂・社会運動の点からも重要な役割を果たしており、両氏のアーカイブズの全容が見えつつあることの意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to construct an archives of documents which two historical science researchers, Yamaguchi Keiji and Murata Shizuko, had left. We got the following results;

First, their documents were put in order, and about 80 percent of the whole were made a list by that. It became obvious that this archives is the basic documents about their historical science studies and social movement. And it could be confirmed that the archives includes documents about Yamaguchi's grandfather Saito Agu, his father Yamaguchi Seiji, and the Yamaguchi-Murata family. Second, from the knowledge of documents research, it was possible to do reinvestigation in the area Yamaguchi investigated formerly and to research on documents of First High School (present University of Tokyo) related to Saito Agu and Yamaguchi Seiji. Third, it was possible to pick research subjects out from the archives and deepen argument for several times workshop.

研究分野：近世日本史

キーワード：研究者アーカイブズ 戦後歴史学 日本近世史 人文学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

これまでの研究者アーカイヴズをめぐる調査研究は、自然科学系のものを中心として取り組まれてきたが、近年、社会運動や女性史など人文学関係のアーカイヴズも構築されるようになった。しかし史・資料の収集はなされるものの、当該のアーカイヴズの内容を精査した上で、独自の研究を展開している事例は多くない。

折しも、文科省の主導で、大学共同利用機関の国立歴史民俗博物館を中心に、研究資源の再利用の方法が模索され始めた。故人となったり現役を退いたりした研究者の書斎や家庭に眠る研究資源は、膨大な質量に及ぶ。こうした点を背景に、故山口啓二・静子が遺した研究資源を歴史学研究者アーカイヴズとして構築することをめざすこととした。

### 2. 研究の目的

本研究は、ともに歴史学研究者であった故山口啓二(1920-2013)・村田静子(1923-2003)両氏(以下敬称略)が遺された、大量の蔵書、研究資料・社会運動資料群 以下、「啓静文庫」を、以下の3点を軸に歴史学研究者アーカイヴズとして整理・保存・公開し、その内容を研究することで、人文学再生に向けての論点を抽出することを目的とした。

(1)「啓静文庫」の文献・資料群の総体を調査・整理し、研究者アーカイヴズとして、公開する。

(2)「啓静文庫」に内包される啓二・静子、祖父斎藤阿具、父山口政二に関連する資料群によって、それぞれの研究・活動の歴史的意義と時代・社会状況との関係性を明らかにする。

(3)近・現代人文学の基幹的な分野である歴史学について、近代初頭以来の射程で研究史を深く再吟味することを通じて、人文学知の発展的継承(「人文学の再生」)を図る。

### 3. 研究の方法

#### (1)歴史学研究者アーカイヴズの構築

以下の方法により、歴史学研究者アーカイヴズとしての構築を図った。

「現状記録調査法」による整理と目録化

「現状記録調査法」とは、研究分担者である吉田伸之がフィールドワークによる史料調査の経験を踏まえて構築した方法で、史・資料が伝存する場所・空間の状況(現状)をコード化しつつ記録し、その場所・空間・容器などを単位化し、その上で各史資料を纏まり(史料組織)や個々の史料素材(史料細胞)毎に記録する、という方法である。「啓静文庫」の史・資料は、この調査法により、伝存空間の記録とともに整理・目録化をすすめた。

保存・公開に向けての長期戦略の策定

「啓静文庫」の蔵書類と史・資料は、当面はそれぞれ民間のトランクルームに預託せざるを得ないが、本研究の期間中、歴史学研究者の希有なアーカイヴズとして相応しい保存・公開のシステムを、他のアーカイヴズ事例も参考し、検討した。

「啓静文庫」の現状記録調査の成果公表と発信

ほぼ毎月、メール配信による「啓静文庫通信」(2019年3月末現在、既刊55号)において逐次発信した。

#### (2)人文学の再生にむけての共同研究

公開の定例研究会(年4回)やワークショップ(年1回)の定期的開催、小規模勉強会(ミニゼミ)での研究ノート報告の積み重ね(ほぼ毎月)などにより、成果の蓄積を共有した。

「啓静文庫」の主軸となる山口啓二・静子両氏、斎藤阿具、山口政二にゆかりのある地域に残存する関連資料を博搜した。

### 4. 研究成果

本研究では、「啓静文庫」の悉皆的な調査、整理作業を行い、歴史学研究者アーカイヴズの構築を目指した。戦後の歴史学研究・自治体史編纂・社会運動において山口啓二・村田静子両氏の果たした役割は大きい。本研究では、そのアーカイヴズの全容が見えつつあるところまで整理作業を進めることができた。本研究での、アーカイヴズの整理方法、調査方法、保存・公開の模索は、今後の他のアーカイヴズにとっても参考事例となるであろう。以下に、研究成果を3項にまとめて報告する。

なお、本研究の課題である歴史学研究者アーカイヴズの構築、そして、その内容解析を基礎にライフ・ストーリーの全体史的な把握を進め、戦後歴史学の前提、及びその創出過程を検討し、歴史学が当面する現状を打開するための方途を多面的に模索することについては、2019-2022年度科学研究費補助金・基盤研究B「研究者アーカイヴズ解析による戦後歴史学創出過程の基盤的研究」(代表:後藤雅知)によって継続して取り組んでいく。

#### (1)「啓静文庫」の整理と目録化

2019年3月までに啓静文庫調査は計90回開催してきた。これまでに書籍類は段ボールで429箱、その8割は目録作成済みである。また研究・社会運動関係資料は段ボールで222箱、その内146箱の整理が終わり、目録は17,000点を超えている。これらの目録は、すべてデータ化しており、整理後、文書保存箱に収納した資料の所在を把握するため「箱目録」も別途作成している。整理作業を通じて、啓静文庫は山口啓二・村田静子両氏による研究資料、社会運動資料のみならず、山口家・村田家の家族資料としての広がりを持つアーカイヴズであることが明らか

かになった。

「啓静文庫」の研究・社会運動関係資料群は、山口啓二・静子の自宅で残されていた場所の現状に依り code を付与した。その概容は以下のようである。

八畳間 (code8) : 整理作業はほぼ終了。目録点数は約 660 点。研究・社会運動に関する手書き原稿やメモ・レジュメ類及び、論考や投稿が掲載された雑誌や新聞が多くを占め、ほかに、静子が研究していた福田英子及び小梅日記関係研究用写真・ネガが含まれる。

三畳間 (code3) : 作業はほぼ終了。目録点数は約 2600 点。自治体史編纂や社会運動に関する資料、一高同窓会や誠之学友会の会誌のほか、啓二の祖父斎藤阿具や父山口政二に関する資料などがみられる。

洋間 (code よ) : 作業中 (残箱 66)。目録点数は約 12300 点。研究や社会運動、東京大学史料編纂所における業務に関する諸資料・写真などのほか、家族に関するものなど多岐にわたる。

和筆笥 (code 和筆) : 作業終了。目録点数は 6 点。福田英子研究史料 (英子宛書状コピー)。

押入天井 (code お天) : 作業終了。目録点数は 60 点。内容は菊池家文書の研究史料で、史料コピーや目録のほか、関係各所との書簡や研究ノートが含まれる。

和室 (code わ) : 作業中 (残箱 4)。約 1240 点が整理済である。社会運動関係、東京大学及び名古屋大学での講義・勤務に関する資料のほか、『福田英子』(村田静子著、岩波新書、1959 年) 刊行に関わる資料が含まれる。

廊下 (code 呂) : 作業中 (残箱 2)。目録点数は約 130 点。近藤重蔵研究史料が中心。

## (2) 関連史料の調査

東京大学駒場博物館所蔵の旧一高関係史料調査 : 一高は、啓二の祖父斎藤阿具が長く教授・教頭を勤め、父政二が寮生として過ごし、また啓二本人も多感な高校生活を過ごした場所である。これらの痕跡を寮日誌、人事関係史料などに見出した。

長野県上伊那郡箕輪町長岡区有文書調査 : 同文書は、1946 年 12 月に山口啓二が友人の永原慶二・稲垣泰彦と共に、文書が保管されていた長岡村長松寺に泊まり込み、調査したものである。啓静文庫の中にはこの時の調査の記録が発見され、これを手がかりに 71 年ぶりの再調査を実施した。2018 年度までに現地で 4 回の調査を実施し継続中である。目録は約 1200 点に達している。

台湾中央研究院 [ 中華民国台北市 ] 岩生成一関連史資料調査 : 対外交渉史研究の岩生成一は、昭和 3 年に開設された台北帝国大学へ翌 4 年に着任し、南洋史講座を担当しながら、研究をすすめていた。岩生成一の遺した蔵書や当時の岩生の研究ノートが、台湾中央研究院に保管されており、内容調査を行った。

## (3) 啓静文庫史料の研究と論点の発掘

定例研究会 : 毎月 1~2 回開催してきた啓静文庫の調査時に、啓静文庫史料に関わる研究報告を中心に定例の研究会を同時に実施している。その成果は、メール配信「啓静文庫通信」において、調査研究成果とともに公表している。

ワークショップの開催 (4 回) : 各年度において、科研のテーマと課題に係るワークショップを開催し、科研メンバーだけでなく、テーマに即して研究者・関係者との議論を深めた。各ワークショップのテーマと報告者・報告題目は以下の通りである。

第 1 回 山口啓静文庫と研究者アーカイヴズ (2016 年 8 月) 報告 : 荒野泰典「人文学の再生に向けて」、安田千恵美「山口家の人々 / 啓静文庫蔵書について」、吉田伸之「資料群の構造と若干の論点」

第 2 回 斎藤阿具と一高 (2017 年 3 月) 報告 : 丹波みさと「駒場博物館所蔵の阿具資料について」、大島明秀「斎藤阿具にみる“日本と西洋”」

第 3 回 研究者アーカイヴズと人文学の再生 (2017 年 12 月) 報告 : 弘末雅士「岩生成一の仕事と東南アジア史」、田中葉子「岩生成一の台北帝国大学での研究活動 研究ノート調査報告」、倉方慶明「大学における研究者資料の保存と活用 中嶋嶺雄資料群を素材に」

第 4 回 近世日本国際関係論の現在 (2019 年 3 月) 報告 : 島田竜登「近世日本国際関係史研究の現状と課題 東洋史・世界史の視点から」、秋山伸一「ソメイヨシノの誕生経緯と伝播 海を渡った桜たち」

## 5 . 主な発表論文等

[ 雑誌論文 ] (計 14 件)

吉田 伸之、能真坊野と平川村、千葉いまむかし、査読有、32 号、2019、pp.13-26

多和田 雅保、町人地と山林利益権、歴史評論、査読有、825 号、2019、pp.38-51

後藤 雅知、丘陵地帯の村と山、歴史評論、査読有、825 号、2019、pp.65-74

吉田 伸之、歴史遺産と地域連携 飯田・下伊那での実践から、歴史評論、査読有、822 号、2018、pp.5-15

松方 冬子、1650~1660 年代シナ海域の情報ネットワーク VOC, 三藩, ポルトガル人, 唐船, 在外日本人、洋学、査読有、25 号、2018、pp.59-79

荒野 泰典、2016 年度史学会大会特集「近世近代移行期の海域世界と国家」コメント、史苑、査読無、73 巻 - 1 号、2017、pp.141-146

吉田 伸之・塚田 孝(共著) Reflexions sur le statut de bourgeois a Edo et Osaka au XVIIe siecle, Histoire, Economie & Societe, 査読無, vol. 2, 2017, pp.80-106  
吉田 伸之、「御城米」と江戸の湊、都市史研究、査読無、3号、2016、pp.82-91  
後藤 雅知、近世房総の山間村落における林産物生産、メトロポリタン史学、査読無、12号、2016、pp.49-75  
高埜 利彦、近世の富士山 - 御師と参詣者、歴史と地理、査読無、700号、2016、pp.32-42  
塚田 孝、近世大坂の開発と社会 = 空間構造 道頓堀周辺を対象に、市大日本史、査読無、19号、2016、pp.65-83  
塚田 孝、鈴木良氏の近代史研究に学ぶ 地域史研究の立場から、部落問題研究、査読無、219号、2016、pp.2-26  
小風 秀雅、外国人が見た富士山、歴史と地理、査読無、702号、2016、pp.32-44  
吉田 ゆり子、伊那谷の村と人形浄瑠璃、飯田市歴史研究所研究年報、査読無、14号、2016、pp.149-157

〔学会発表〕(計22件)

荒野 泰典、近世日本の国際関係と「鎖国」・「開国」言説 「鎖国」から「国際関係」へ、河合塾文化講演会、2018  
後藤 雅知、近世後期における摂津・丹波の寒天生産と大坂、「中日城市史研究と比較」国際学術討論会、2018  
吉田 伸之、町奉行所市中取締掛と幕末期の江戸社会、「中日城市史研究と比較」国際学術討論会、2018  
多和田 雅保、大都市圏における大学と地域資料保全、国立歴史民俗博物館ほか主催シンポジウム、2018  
松方 冬子、Gifts and Commissions as a Replacement of Border Tax: Reevaluation of the VOC gifts to the Tokugawa Shogun, the workshop "Gifts and Tribute in Early Modern Diplomacy: Global Perspectives," Warwick in Venice, 2018  
荒野 泰典、明治維新と鎖国・開国言説、第47回明治維新史学会総会、2017  
多和田 雅保、信州の諸都市と市場、史学会大会近世支部会シンポジウム、2017  
吉田 伸之、巨大都市江戸近郊の海辺と社会、海洋人文学研究所国際学術大会、2017  
吉田 伸之、Modernizing the Shoreline: The Case of the Outskirts of Edo(Tokyo), The Meiji Restoration and it's Afterlives Social Change and the Politics of Commemoration, 2017  
吉田 伸之、"The social=spatial structure of the chonin districts of Edo and the topology of plebeian lifeworlds"(「江戸町人地の社会=空間構造と民衆世界の位相」): Plebeian Society and the Growth of Cities in 'Early Modern Japan' (「都市の巨大化と民衆世界」)、イェール大学東アジア研究センター、2017  
塚田 孝、大坂における歌舞伎役者の褒賞と天保改革、イェール大学東アジア研究センター、2017  
荒野 泰典、近世日本の国際関係の実態と言説、交詢社歴史研究会、2017  
多和田 雅保、大都市型資料保全ネットワークのあり方について、全国史料ネット交流集会、2016  
塚田 孝、近世大坂の都市社会構造 孝子・忠勤褒賞から見る民衆世界、都市史学会、2016  
多和田 雅保、地域資料をまもる 神奈川地域資料保全ネットワークの活動、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会、2016  
高埜 利彦、日本近世史研究と歴史教育 朝幕関係を中心に、北海道高等学校日本史教育研究会、2016  
吉田 ゆり子、日本の城と樹木 人びとの暮らしと城との関係性に注目して、世界史セミナー、2016  
塚田 孝、近世大坂の都市民衆の生活世界 孝子・忠勤褒賞を手掛かりに、近世史研究会、2016  
吉田 ゆり子、日本近世における「家」の歴史意識 山里に遺された家伝記と遺言状を素材として、日仏国際研究集会、2016  
塚田 孝、鈴木良氏の近代史研究に学ぶ 地域史研究の立場から、大阪歴史科学協議会、2016

〔図書〕(計9件)

松方 冬子、東京大学出版会、国書がむすぶ外交、2019、360  
浅見 雅一・野々瀬 浩司(編) 松方 冬子 他(著) 慶應義塾大学出版会、キリスト教と寛容(オランダ共和国における宗教的寛容と日本(松方冬子))、2019、288(119-134)  
吉田 伸之(編) 山川出版社、山里清内路の社会構造 近世から現代へ、2018、416  
ダニエル・V・ボツマン、塚田 孝、吉田 伸之(編著) 山川出版社、「明治一五〇年」で考える、2018、248  
Adam Clulow, Triotan Moetert (eds), Fuyuko Matsukata 他、Amsterdam University Press、The Dutch and English East India Companies (Contacting Japan: East India Company Letters to the Shogun (Fuyuko Matsukata))、2018、262(79-98)

吉田 伸之・高埜 利彦（共著） 山川出版社、日本近世史研究と歴史教育、2018、224  
松方 冬子（共著：歴史学研究会） 東京大学出版会、歴史を社会に活かす、2017、328  
後藤 雅知・吉田 伸之、崙書房、古文書でよむ 千葉市の今むかし 近世編、2016、260  
多和田 雅保 他、勉誠出版、地域と人びとをささえる資料 古文書からプランクトンまで、  
2016、320

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

「啓静文庫通信」毎月メール配信。2019年3月末現在、既刊55号。

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：吉田 伸之  
ローマ字氏名：YOSHIDA, nobuyuki  
所属研究機関名：東京大学  
部局名：大学院人文社会系研究科（文学部）  
職名：名誉教授  
研究者番号（8桁）：40092374

研究分担者氏名：多和田 雅保  
ローマ字氏名：TAWADA, masayasu  
所属研究機関名：横浜国立大学  
部局名：教育学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：10528392

研究分担者氏名：後藤 雅知  
ローマ字氏名：GOTO, masatoshi  
所属研究機関名：立教大学  
部局名：文学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：50302518

研究分担者氏名：松方 冬子  
ローマ字氏名：MATSUKATA, fuyuko  
所属研究機関名：東京大学  
部局名：史料編纂所  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：80251479

研究分担者氏名：吉田 ゆり子  
ローマ字氏名：YOSHIDA, yuriko  
所属研究機関名：東京外国語大学  
部局名：大学院総合国際学研究院  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：50196888

研究分担者氏名：塚田 孝  
ローマ字氏名：TSUKADA, takashi  
所属研究機関名：大阪市立大学  
部局名：大学院文学研究科  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：60126125

研究分担者氏名：高埜 利彦  
ローマ字氏名：TAKANO, toshihiko  
所属研究機関名：学習院大学  
部局名：文学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：90092254

研究分担者氏名：小風 秀雅  
ローマ字氏名：KOKAZE, hidemasa  
所属研究機関名：お茶の水女子大学  
部局名：基幹研究院  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：90126053

(2)研究協力者  
研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。